

早稲田大学 教育学部
2026 年度 帰国生入学試験問題の訂正内容

科目：日本語

●問題用紙 No. 2

問題内に記載の出典著作者氏名表記に誤りがありますので、以下の通り訂正いたします。

(誤) (元森恵理子＋ハン・トンヒョン編『成人式を社会学する』による)

(正) (元森絵里子＋ハン・トンヒョン編『成人式を社会学する』による)

以上

2026年度 教育学部 帰国生入試 問題用紙

受験番号					
氏名					

生涯教育学専修
「日本語」

問題 次の文を読んで、後の問いに答えなさい。

ここで目を向けるべきは、そもそも成人式のルーツは、戦前期由来のノンエリート青年向けの社会教育にあるらしいことである。

成人式のルーツとしてよく紹介されるのは、埼玉県北足立郡蕨町（現、蕨市）の青年祭（蕨町・蕨町青年団主催）の一部として開かれた成年式である（蕨市 1995: 775-6.写真 1-1）。町議会議員で青年団長でもあった人物が、「敗戦直後で青年が希望を失っていた。これじゃいけない、一人前になったという自覚を持たせるにはどうするか」（『埼玉県蕨町 成人の日』朝日新聞、1955.1.15）と発案したという。対象は当日満 20 歳の者、1946 年 11 月 22 日という開催日は、戦前の新嘗祭の前日にあたり、1930 年に制定された青年記念日である。1933 年 11 月 22 日に、名古屋市連合青年団主催の青年団成人式が、同じようなプログラムで開かれたという知見もあり、青年団主催の成人式は、戦前にも複数存在したイベントである可能性が高い（室井 2018: 67-8; 田中 2020: 8-10）。

もう 1 つ、宮崎県諸塚村の成人祭も紹介されることがある（写真 1-2）。1947 年 4 月 3 日が初回で、男子 20 歳、女子 18 歳を対象に、成人の自覚を高める成人講座を約 1 週間実施し、最終日に成人証書が交付された（諸塚村史編集委員会編 1989: 653-5; 田中 2020: 13-4）。『農山村の青年にとって軍隊生活は唯一の教育の場であり、これによって公民的常識の養成と、規律、責任感、協調性などが培われ』『本村の壮年会や警防団、その他の団体の中堅となって、戦前の村づくりに貢献した』（諸塚村史編集委員会編 1989: 654）のに、敗戦で徴兵制度が廃止されてしまった。そのことを憂いた有志が発案したという。

おそらく成人式は、「青年」（男子）が徴兵検査年齢（20 歳）を迎えたことを一人前の証と見る戦前の感覚にルーツを持つのである。戦前期は、義務教育は小学校 6 年間で、長くとも高等小学校までの 14 歳で学校教育を終える者が多数派だった。その時代に重大な節目だった徴兵検査や軍隊教育が、敗戦で突如消滅した。成人式はそれを埋め合わせるように考案された。（ア）青年団や成人講座は、学卒後の若者を組織し教育するための、社会教育（学校・家庭以外の社会で行われる教育）にあたるものである。成人式という発想は、学校外でノンエリート青年を組織・教育するという、戦前期の「大人になる」道筋を埋め合わせるものだったのである。

1956 年 9 月 6 日に、中央青少年問題協議会が、『成人の日』の運営等について』（総審青第 102 号、文部省社会教育局編 1959: 21-3）という会長から総理大臣に宛てた意見具申を出す。新聞では、式典ゲストの美空ひばりを見ようと人が殺到して死傷者が出た事件をきっかけに、成人の日の意味を問い直す専門委員会が設置されたと報じられている（『成人の日』を検討』朝日新聞、1956.9.7）。同意見具申は、「遺憾ながら一般の関心はないうすく、このままでは国民の祝日としての『成人の日』本来の意義は失われる恐れがある」とし、義務教育修了から成人に達するまでの年齢層を成人式の対象とすることを提案している。

これに対する応答として、同年 12 月 10 日に、各都道府県教育委員会宛て文部事務次官通達『成人の日』の行事について』（国社第 162 号、文部省社会教育局編 1959: 19-21）が出される。招待される成人は、「現在全国的にみるとおおむね満 20 歳となつている」が、『成人の日』の趣旨にかんがみ、将来社会の形成者としてよき成人となるべき義務教育終了期から成人に達するまでの青少年もともに参加させることが望ましい」と、意見具申に従って行事の対象を義務教育終了以降 20 歳までに広げると同時に、「公民」育成という当初の目的を している。

ここでも、主として想定されているのは、義務教育の中学校で学校教育を修了する層だろう。1955 年の高校進学率（定時制課程含む、通信制課程除く）は 51.5% であり（『学校基本調査』）、同世代の約半数が 15 歳で学校を終える時代であった。最初の集団就職列車が走ったのが 1954 年でもあり、多くが中卒で親元を離れて都会で就労していた。

ただし、この意見具申と通達の効果は甚だ怪しい。翌 1957 年には、「千葉県の市町村では、成人の日の式典に中学生も参加するところが多い」と紹介されるものの、講話を取り入れたり、祝い金の貯蓄管理を話し合わせたり、

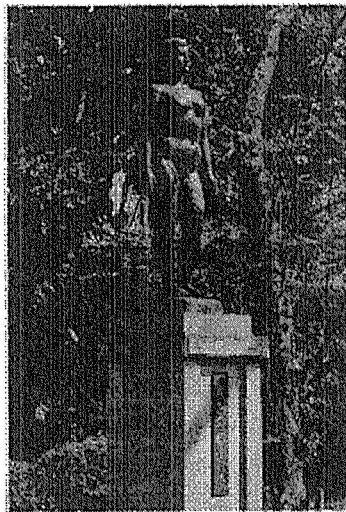
受験番号					
氏名					

生涯教育学専修 「日本語」

餅つきと組み合わせたりといった各地の取り組みが、「『成人の日』運動の意味をはき違えた混乱もみられるが、とにかくにも一部になんとか成人の日にふさわしい動きが出ている」（『『成人の日』を見直そう 新運動とその実情』朝日新聞 1957.1.15）と（ウ）無理やり総括されている。結局、参加を増やす試みと成人式はどうあるべきかをめぐる迷走は続いている。

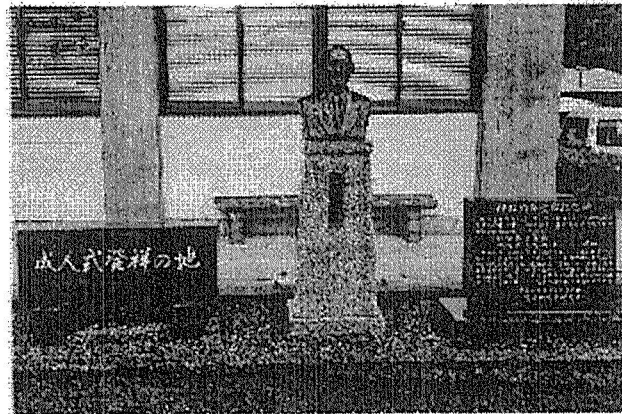
エ 中央青少年問題協議会とは、1950年に、その前提に充足した青少年問題対策協議会を常設機関化して内閣官房に置かれたものである。類する名称を持つ団体として、1954年に、学術組織である青少年問題研究会が発足し、雑誌『青少年問題』を刊行している。当時、「青少年問題」が強く意識されていたことがわかる。これは、その後、「青少年行政」という政策領域（担当官庁は総理府・総務庁・内閣府・こども家庭庁）をかたちづくっていくことになる。

この最初期の「青少年問題」の最重要部分は、「非行」「不良化」である。1951年には、のちに少年非行「第1のピーク」と呼ばれる少年犯罪の増加を見るが、この時期の非行はおおむね、「貧しさからの非行」「焼け跡的非行」「闇市的非行」と説明されていた。つまり、貧しい層を非行に走らせないための施策が、必要とされていた。意見具申でも、「青年に対して教育、福祉、労働、保護の各般にわたる施策を計画的、継続的、総合的に考慮すべきである」と、多様な政策領域名が列挙されており、（オ）成人式が家族や学校の管理を早く離れるノンエリート層対策の文脈につながっていることが見えてくる。



〔出所〕筆者撮影

写真 1-1 成人式発祥の地の記念碑（蕨市）



〔出所〕筆者撮影

写真 1-2 成人式発祥の地の記念碑（諸塚村）

（元森恵理子＋ハン・トンヒョン編『成人式を社会学する』による）

問Ⅰ 下線（ア）では、教育は学校の中だけ起きるものではないという点が指摘されている。これと同様に、学校外における組織的な教育的活動としてどのようなものがあるか、以下から最も適切なものを選び、番号で答えなさい。

- ① 公民館で行われる市民講座に参加し、環境問題について考える活動。
- ② 図書館を利用して自分の興味に応じた本を借り、自ら読書習慣を身につける活動。
- ③ 博物館で展示を見学し、歴史や文化について知識を深める活動。
- ④ 学校の部活動で先輩後輩との関係から規律を学ぶ活動。

受験番号					
氏名					

生涯教育学専修 「日本語」

問2 本文中の空欄 に最もふさわしい語を選択肢から選び、番号で答えなさい。

- ① 提案 ② 確認 ③ 否定 ④ 改定

問3 下線(ウ)「無理やり総括されている」とあるが、どのような点から「無理やり」といえるのか、本文の内容に即して120字程度で説明しなさい。

問4 本文中の空欄 に最もふさわしい接続詞を選択肢から選び、番号で答えなさい。

- ① したがって ② ところで ③ けれども ④ そもそも

問5 下線(オ)に関連して、本文全体の議論によれば、成人式は、どのような背景のもとで、具体的にどのような層を対象に、どのような社会教育的役割を担うものとして行われたと説明されているか。100字以内で要約しなさい。

問6 以下の新聞記事には、現在の成人式の一側面が記されている。本文に記された過去の成人式の意義と、記事に描かれた現在の姿を比較しながら、現在の成人式がどのような意味を持っているといえるか、あなたの考えを200字程度で述べなさい。

ど派手衣装 魅力競う

北九州二十歳の式典&ショー

成人の日を前に7日、県北九州市では、市主催の「内各地で式典が開かれ、若者二十歳の記念式典」のほか、各地の門出を祝った。ど派手にファッションショー「成人式アートコレクション」が初めて開催され、男女19人がランウェイ(花道)を歩いて衣装や髪形のショーとしての魅力を競った。

福岡県「北Q10」

0」。式典会場横の公園に集まった若者たちに声をかけ、式典の終了後別会場に設けたランウェイをモデルのように歩いてもらった。鮮魚店で働く森本環(20)は、金びかりの衣装にパーマで髪を魚の頭のよう

に伸ばした姿、「いつか自分の店を」という夢を託した。大学2年の岡本くるみさん(20)は、淡い春色の振袖。「人がしないことを」と黒髪から額にかけて金粉をあしらひ、目を引いた。「将来は警察官になって人の役に立ちたい」と語った。

成人年齢は民法改正で18歳に引き下げられたが、今年も多くの自治体が、式典の参加対象を20歳としている。

(福山 浩)

朝日新聞 2024年1月8日朝刊(福岡) 19頁

※WEB掲載に際し、以下のとおり出典を追記しております。

朝日新聞 20240108 ど派手衣装、魅力競う 北九州、二十歳の式典&ショー／福岡県
朝日新聞社の許諾を得て掲載しております。(承認番号：25-2922)

※朝日新聞社に無断で転載することは禁止されております。

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.